

だいこん

農薬取締法上「だいこん」と「はつかだいこん（ラディッシュなど含む）」は別作物である。また、「だいこん」は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれないので、葉を食用にする場合でも「だいこん」か「根菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。なお、粒剤等を使用しただいこんは間引き菜やつまみ菜として食用に供することができないものがあるので注意すること。

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春	ま	き											
初	秋	ま	き										
萎軟	黄腐	病											
ア	ブ	ラ	ム	シ									
キ	ス	ジ	ノ	ミ	ハ	ム	シ						
ハ	イ	マ	ダ	ラ	ノ	メ	イ	ガ					
ネ	キ	リ	ム	シ									
コ	ナ	ガ	・	ア	オ	ム	シ						
ヨ	ト	ウ	ム	シ									
カ	ブ	ラ	ハ	バ	チ								

萎黄病

留意事項

- 1 土壤温度26～29℃の時に発生が多い。

防除方法

- 1 初秋まきでは、早まきを避ける。
- 2 耐病性品種を用いる。
- 3 発病株を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 土壤消毒を行う。(XⅢ土壤消毒2 参照)

軟腐病

留意事項

- 1 高温多雨の年に発生が多い。
- 2 キスジノミハムシやヨトウムシの食害痕からも発生しやすい。
- 3 バイオキーパー水和剤は軟腐病の拮抗微生物を成分とする。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 いね科、まめ科作物との輪作を行う。
- 2 高うねにして、排水を良くする。
- 3 初秋まきでは、過度の早まきは避ける。
- 4 発病株は、直ちに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 窒素過多にならないよう、適正施肥に努める。
- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [バイオキパー水和剤](#) — (生)
 - 【野菜類（除かぼちゃ、ズッキーニ） 500～2,000倍 発病前～発病初期／—】
- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スターナ水和剤](#) 3 1 【1,000倍 14日／5回】
 - ・ [カスミンボルドー](#)、[銅シン水和剤](#) M 1 2 4 【1,000倍 14日／3回】
 - ・ [バリダシン液剤5](#) U 1 8 【500倍 7日／4回】

モザイク病

防除方法

- 1 早まきを避ける。
- 2 耐病性品種を用いる。
- 3 シルバーポリフィルムで、マルチングを行う。
- 4 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項参照）

アブラムシ類

留意事項

- 1 モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシなどが発生する。
- 2 パダンSG水溶剤は、夏期高温時にあぶらな科野菜の苗や軟弱苗には使用しない（薬害）。

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) 4 A 【3～6kg／10a まき溝処理土壌混和 は種時／1回】
 - ・ [アクタラ粒剤5](#) 4 A 【4kg／10a 作条混和 は種時／1回】
 - ・ [プリロツソ粒剤](#) 2 8 【6kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C 【2,000倍 前日／3回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2,000～3,000倍 7日／2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1,500倍 7日／3回】
 - ・ [ウララDF](#) 2 9 【2,000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

キスジノミハムシ

留意事項

- 1 年3～4回発生で成虫越冬する。
- 2 成虫は葉を、幼虫は根を食害する。
- 3 高温乾燥時に多発する。
- 4 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は、5回以内（但し、は種時のまき溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内）。
- 5 フォース粒剤の成分テフルトリンの総使用回数は、2回以内（但し、は種時までの処理は1回以内、は種後は1回以内）

防除方法

- 1 早まきを避ける。
- 2 幼虫に対して、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A
 - 【4～6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
 - 【9～12kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】
 - 【6kg/10a 生育期（30日）/1回】
 - ・ [フォース粒剤](#) 劇 3 A
 - 【6～9kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】または
 - 【4～9kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
 - 【6kg/10a 株元散布（14日）/1回】
- 3 成虫に対して、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [グレース乳剤](#) 3 0 【2,000～3,000倍 7日/2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1,000倍 7日/2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1,500倍 7日/3回】

カブラハバチ

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [プリロッソ粒剤](#) 2 8 【カブラハバチ類 6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [グレース乳剤](#) 3 0 【2,000～3,000倍 7日/2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) 2 8 【カブラハバチ類 2,000～4,000倍 前日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日/2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2,000～4,000倍 14日/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

- 1 5月下旬より発生が始まり、8～10月の高温乾燥時に発生が多い。
- 2 キャベツ、はくさいも加害する。
- 3 食入前の防除に努める。

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [プリロツソ粒剤](#) 2 8 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [グレーシア乳剤](#) 3 0 【2,000～3,000倍 7日/2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日/3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2,000倍 7日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日/2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1,000～2,000倍 7日/2回】

ネキリムシ類

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [デナボン5%ベイト](#) 1 A 【3～6kg/10a 株元散布 30日/4回】
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1 B
 - 【4～6kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時/1回】
 - 【6kg/10a 土壌表面散布 生育期（21日）/1回】
 - ・ [プリロツソ粒剤](#) 2 8 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
 - ・ [アクセルベイト](#) 2 2 B 【3～6kg/10a 株元散布 7日/2回】

コナガ・アオムシ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
- 3 あぶらな科野菜を加害するほか、ナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどの雑草にも寄生する。
- 4 コテツフロアブルは、だいこんでは8葉期以降に使用する（薬害）。

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [プリロツソ粒剤](#) 2 8 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [グレーシア乳剤](#) 30 【2,000～3,000倍 7日／2回】
- ・ [ベネビアOD](#) 28 【2,000～4,000倍 前日／3回】
- ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1,000～2,000倍 7日／3回】
- ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日／2回】
- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【2,000倍 14日／2回】
- ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1,000倍 14日／2回】
- ・ **BT剤** 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ヨトウムシ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ベネビアOD](#) 28 【4,000倍 前日／3回】
- ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日／2回】
- ・ [アクセルフロアブル](#) 22B 【1,000～2,000倍 7日／2回】
- ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1,000倍 14日／2回】
- ・ **BT剤** 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。